平成28年度 学校評価　総括評価表

評価基準　A：十分に達成できた　　B：概ね達成できた　　C：十分には達成できなかった　　D：全く達成できなかった

平成28年度重点課題
1　開かれた学校づくり
2　基礎学力の充実と応用力の育成
3　長所を伸ばし適性を引き出す教育の推進
4　基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚
5　人権意識の高揚
6　環境教育の推進
7　防災教育の推進

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	総合評価	学校関係者の意見	
1 開かれた学校づくり	①家庭・地域へ向け積極的に情報を発信する。 ②保護者と積極的に情報交換し，日頃の教育活動に生かす。 ③学校行事を充実させると共に積極的な公開に努める。 1　市高祭の公開 2　体験入学の実施	**評価指標** ①学校ホームページへのアクセス件数 100000件以上 ②PTA総会・各種研修会への参加率を増やす。 ③市高祭の入場者数 1000人以上を目指す。 ③アトラクション・表現展示・バザールの参加団体数 42 以上を目指す。 ③体験入学参加者数 800人以上を目指す。 **活動計画** ①ホームページの更新を年に100回以上行う。 ②PTA総会の日程を工夫したり，配布物による案内だけでなく，ホームページを利用し，きめ細かい情報提供交換を行う。 ②PTA主催の各行事毎に，保護者へのアンケートを実施し，今後の活動の参考にする。	**評価指標の達成度** ①アクセス件数　179,839件(2016/4/ 1～2016/12/31) 前年度より約 35,000 件の増加 ②PTA総会の参加率　30.5%　昨年　34.3% 3年対象進路別説明会　66.2%　昨年　61.6% ③市高祭の入場者数　1091名　昨年　1197名 ③イベント数　8　昨年　8 アトラクション数　13　昨年　11 表現展示数　27　昨年　24 食品バザール数　8　昨年　8 ③体験入学参加者　1054 名（中学生：899保護者:155） 昨年 1203 名（中学生:1026 保護者:177） **活動計画の実施状況** ①更新回数 463回（2016. 4.1～2016. 12.31） 前年度より 113 回の増加 ②PTA主催の学校教育活動の開催に際し，日程を見通し，工夫を行うとともに，案内状を配布するだけでなくホームページに掲載するなど，情報提供を行った。 ② PTA 家庭教育部主催文化教養講座でのアンケート結果より，内容については９割の方が大変よかったと回答し，開催時期は，例年通り夏休みの平日午後実施の希望が多かったため，来年度の計画への参考にしたい。	A （所見） 今年もＰＴＡ総会と進路講演会を連続して実施するという形態を継続し，昨年を上回る参加率となった。今後もさらに内容の充実を検討をしていきたい。 アトラクション・表現展示は昨年より増加し，食品バザール・イベントは昨年と同数実施した。入場者数は他校との文化祭等と重なっていて，昨年より少し減少した。 体験入学の参加者が増加しており，本校へ関心を持っている中学生，保護者が	ホームページは計画の 4 倍以上も更新されており，達成度が高いので，今後は指標の上方修正も検討してはどうか。情報伝達についての保護者・生徒と教員との満足度に差があるので，紙媒体の配布物もホームページにアップしたりする等工夫が必要である。 学校行事の広報について，地域にチラシを配るなど積極的に取り組んでいる。地域に開かれた学校を目指してほしい。	①ホームページをリニューアルし，情報提供を拡充するとともに，迅速な更新に努めたい。 ② PTA 総会への参加率を上げるため，日程や内容等を工夫改善していきたい。 ③今年も人気お笑い芸人を呼ぶなど新しいイベントを企画し，大いに盛り上がった。今後も企画運営等を改善し，より地域に親しまれる市高祭にしていきたい。 ③体験入学の参加者は昨年度から増加しているが，新校舎効果も落ちついてきたと思われる。今後も市高の魅力を発信して広報に努力したい。 ③体験入学は毎年好評で，今後もアンケートを実施し，その結果を次回に反映するように努力したい。

		③学校・保護者による作品展・交流を行う等，内容の充実に努める。 ③事前の計画を綿密に立て，魅力ある公開授業やわかりやすい説明に努める。	③生徒会役員を中心に市高祭ポスターを作成し，各中学校や高等学校へ案内した。また，地域住民には市高祭の案内の文書を各家庭に生徒が配布するなど，広報活動に努めた。 ③保護者からも70点の作品を展示する事ができた。 ③体験入学のポスターやチラシを事前に作成し関係中学校への広報活動にまわった。また，中学生が希望する授業を体験できるよう時間割を組んだ。アンケート調査からは，約94％の中学生が体験授業が分かりやすかったと感じており，高校の授業の様子が分かり,進路決定の参考にしたいという感想があった。	多いことが伺える。		
2 **基礎学力の充実と応用力の育成**	①授業日数・授業時数の確保に努める。	**評 価 指 標** ①授業時数を800時間以上確保する。	**評価指標の達成度** ①ほぼ昨年並みの授業時数が確保できている。 2学期末までの授業時数　今年度 833 昨年度 824 一昨年度 845	**総合評価** （評定） A’	学校評価において，2年生の数値が全般的に低いようだ。中だるみもあるが，次年度に向けて意識の向上に取り組んで欲しい。過年度で比較すると，年々数値も上がっているので，教育効果は上がっている。 補習の皆勤人数も増えているが，皆勤以外の生徒も欠席が減っているようで素晴らしい。生徒に手帳を持たせたり，日々の学習記録をつけていくことは良い取り組みなので今後も続けて欲しい。	①行事日程の見直しや行事の精選によって時数を確保できた。
	②わかりやすく，魅力ある授業に努める。	②(1年)「学習のかたち週間」を1･2学期の初めに実施する。 (2,3年)「学習のかたち週間」を1学期の初めに実施する。 ②授業満足度70％以上を目指す。 ②校内授業参観週間を1・2学期に 1回ずつ設定する。	②「学習のかたち週間」　1年　2回実施 2,3年　1回実施 ②教科会議　教科により差はあるが平均　5回開催 ②授業満足度　3学年平均　77.0％ ②校内授業参観週間　1.2学期　1回ずつ実施	（所見） わかりやすく生徒にとって魅力ある授業を目指し，校内授業参観等を通して，今後も努力を継続したい。 教科会議は，事務的なことに費やされることが多い。今後指導力向上に関する教科内での積極的な話し合いができるように見直していきたい。 生活記録を提出している生徒には，自らの学習状況を把握し振り返ることができており，学習意識の向上に役立っている。 家庭学習時間調査は担任の生徒の学習時間把握に役立ち，生徒においても自らの学習時間に対して意識するよい機会となっている。 特設コーナーを設け探しまわらなくてもすぐ手に取る事が	②校内授業参観や教科会議が，授業力や指導力の向上に十分機能するよう時間の確保を含め，充実させる。教科会議は学年教科会の充実もはかりたい。
	③学習習慣の定着を図る。	③家庭学習時間調査を定期考査前に実施し，3時間以上学習する生徒の割合を増やし，40%以上を目標とする。 ③毎月の学習計画表と長期休暇中の学習計画表を配布し，定期的に集めてコメントを記し，学習がうまくいってない生徒に対しては，面談の中で助言や指導をして学習習慣の改善を図る。 ③自習室の活用を積極的に促し，利用者延べ人数**2万人**を目指す。	③週課題（日々の課題は含まない） 1年　英語　17回　数学　13回　国語　17回 2年　英語　17回　数学　17回　国語　18回 (2学期末現在) ③家庭学習時間調査　4回実施(12月現在) ③自習室ののべ利用生徒数18,284人(12月末現在)。			②教師は自らの授業を客観的に見つめる目を持ち，生徒の実態，要望を分析し，授業内容の研究・改善に努める。 ③家庭学習の習慣化や授業内容の定着のための週末課題や日々の課題を取り入れているが，さらに生徒の意欲を喚起し，目的意識を持たせることが大切である。
	④補習への積極的な参加を促す。	④(1,2年)全員参加補習の皆勤者数 100人以上を目指す。 ④(3年)受講講座への出席率**80%以上**を目指す。	④補習皆勤者数　1年149人(46.4%)2年105人(33.3%) (12月末現在) ④３年生補習申込者に対する受講率　約 70 %			④補習の意義を HR 担任・教科担任が生徒に理解させ出席を督促するとともに，補習の内容も常に改善・向上させていく必要がある。
	⑤校内実力テストを有効に活用するとともに，希望者受験の模試の積極的な受験を促す。	⑤希望者受験模試の受験者数（延べ人数）は次の人数を目標とする。 (1,2年)　**500人**以上 (3年)　**1400人**以上	⑤オプション模試受験者数（延べ人数） 1年　227名　2年　240名　3年　1380名 (12月末現在)			
	⑥読書を薦める。	⑥(1年)夏休みの読書の宿題を全員提出する。 ⑥図書館便りを年7回発行する。	⑥読書の宿題 1年　読書感想文　－　全員提出 世界史レポート　－　全員提出 ⑥図書館便り　8回発行			⑥読書に親しむ機会を生徒が多くもつように教科や各分掌で勧める。 ⑥図書館利用の促進を引き続きはかっていきたい。

		活 動 計 画 ①行事を精選し，授業カットや短縮はなるべく避け，振り替え授業を徹底する。 ①45分の授業に集中するため，チャイムとともに授業を始める。 --- ②学期の最初の1週間を「学習のかたち週間」とし，全教科科目で実施する。予習・復習・ノートのとり方・授業に臨む態度など望ましい学習習慣の定着に努める。 ②教科会議で話し合い，授業方法の改善に努める。生徒による授業評価を行う。 ②校内授業参観週間では授業参観カードを有効に利用し，教師相互の授業改善に努める。 --- ③週間課題・日々の課題で学習の習慣化を図る。 ③家庭学習時間調査の期間を学習強化週間として学習習慣の定着を促進する。 ③集会・面談等において家庭学習時間の確保と重要性を指導し，学習記録に記すことで学習計画を立てる習慣をつける。 ③生徒が集中して学習に取り組める環境を確保する。 --- ④担任による生徒への出席の督促と保護者の協力により欠席者を減らす。 ④(3年)担任指導により欠席者への受講を促す。 --- ⑤実力テストごとに出題検討委員会を開く。 ⑤各模試の目的・意義を伝える。 ⑤成績の分析を今後の学習指導に役立てる。 --- ⑥夏休みの宿題として，以下のものを提出させることで正確に読み的確に表現する力を向上させる。。 （1年夏休み）読書感想文・世界史レポート ⑥図書館便りで新着図書や推薦図書の案内を行うとともに，各教科からも案内を行う。	**活動計画の実施状況** ①出張・年休は可能な限り振り替え授業で対応した。授業時数の確保については，全職員共通認識の上で定着しつつある。 --- ②1，２年生生徒対象進路講演会，職員対象進路研修会を実施し，進学への心構えや取り組み方，進路指導技術について学んだ。 ②アンケートによると，93.5%の教員が授業に対して，創意工夫している。 ②校内授業参観週間では，自分の専門教科を最低１回は参観し，参観カードを必ず提出するようにした。 ②研修会への参加教員からはレポートを提出してもらい，教科内で共有した。 --- ③週課題・日々の課題は必要に応じ出されている。 ③家庭学習時間調査は学習強化週間に行い担任からの声かけに生かしている。 ③各ＨＲ担任は生徒から提出された「生活記録」にコメントを書いたり，日々の声かけや面談時に生活記録の内容に言及することで生活の改善を促している。 ③自習室開放を平日8:30～19:00，休日8:30～16:30にほぼ年間を通じて実施している。12月末で266日開放，のべ利用生徒数18,284人。 --- ④電話連絡・三者面談等の機会を通じて補習への出席を督促している。 --- ⑤各HR担任が個人面談等を通して校内実力テスト・校外模試の目的・意義を伝え，学習意欲の高揚をはかるように指導している。 ⑤校内実力テスト・校外模試の結果は学年・教科で共有し，平素の指導に役立てている。 --- ⑥1年は読書感想文と世界史のレポートを実施し，読書感想文は全員提出した。	できるようにし，ポップで内容紹介文もつけた。		
3 **長所を伸ばし適性を引き出す教育の推 進**	①部活動の活性化に努める。 ②生徒一人ひとりの	**評 価 指 数** ①部活動加入率 80%以上。 ①四国大会以上の大会への出場部数10部以上。 --- ②進路についての検討会（進路対策会議）を下記の回数	**評価指標の達成度** ①部活動加入率 1年 98.0% 2年 82.0% 3年 96.0% ①四国大会以上の出場部数 四国大会 16部 全国大会 7部 --- ②進路対策会議	**総合評価** （評価） A （所見） 部活動が活発に行われており，生徒の	教師への相談は教師側と生徒・保護者で意識の差があるようなので，来年度評価指標に入れて検討していってほしい。	①部活動加入率は目標値を達成しているが，2 年の加入率が減少している。より意欲的に部活動ができるように生徒をサポートしていきたい。 ②難関大の合格者数が目標

	進路希望の実現に努める。	実施する。 (1,2年) 年間　2回 (3年)　年間　5回 ②生徒・保護者・担任の三者面談を年間2回確保する。 ②生徒と担任の二者面談週間を年間3回実施する。 ②難関大（旧帝大・東工大・一橋大・神戸大・国公立大医学部医学科・早稲田・慶応）の合格者数50人以上を目標とする。 ②IRP活動（市高レインボウプラン）の生徒満足度 70%以上を目指す。	1年　2回　　2年　2回　　3年　5回 ②３者面談 1年　2回　　2年　2回　　3年　3回 ②２者面談週間 1年　2回　　2年　2回　　3年　2回 その他三者，二者面談とも各HRで必要に応じて行った。 ②IRP活動の生徒満足度　　66.4% ③学年別連絡協議会2回、教育相談対策委員会5回 3学期も教育相談対策委員会は実施予定である。	満足度は高いと思われる。さらなる充実感が得られるような指導の取り組みが求められる。 市高レインボウプランにおいては，高大連携教育あるいはキャリア教育の観点からも，生徒が自ら考え，行動できるように援助できるようにする必要がある。 臨時の教育相談対策委員会の開催数が多いということは，特別なニーズを要する生徒が多いことを意味する。現状を認識して，対策委員会に係るまでの経緯を検討し，早めに手立てを考えることが必要である。		値には達していないものの，生徒の志望を叶えられるようにしていきたい。 ②市高卒業生などのネットワークをもとに各大学，職場と連携することによって高大連携教育やキャリア教育を進展させる必要性がある。
	③特別なニーズを有する生徒について，支援体制を整える。	③学年別生徒連絡協議会や教育相談対策委員会を年間 6回以上開催して，情報交換ならびに共通理解を図る。 **活 動 計 画** ①勉強と部活動との両立をHR活動や学年集会等で指導する。 ①部活動紹介・壮行会・表彰伝達式で意識の高揚を図る。 ②生徒の希望を現在の学力から適切妥当な進路先を提案するために学年の教員で話し合い，研修して指導力を高める。 ②面接週間以外にも時宜を得た面接指導を行う。 ②一人ひとりの長所・適性を把握する。 ②生徒と保護者の希望を聞き取り，その希望を実現するための具体的な方策を担任が提案する。 ②生徒の志望の実現に向け，教員が研修した成果を生徒に還元すべく，個別指導に勤める。 ②大学等の出張講義や研究施設を積極的に活用する。 ②高大連携教育を推進し，連携協定大学を中心に，生徒の知見を深める。 ③学年別生徒連絡協議会や教育相談対策委員会で確認されたケースについて，鳴教大アドバイザーとの連携のもと，支援方法を検討・実践する。	③学年別連絡協議会2回、教育相談対策委員会5回 3学期も教育相談対策委員会は実施予定である。 **活動計画の実施状況** ①新入生オリエンテーションで部活動と勉強の両立を指導するとともに，部活動紹介で部活動に加入することを指導した。 ①総体・四国総体・インターハイ・国体壮行式を実施した。表彰伝達式を 8回実施した。特に弓道部の全国選抜大会優勝報告会を開き，全校生徒に報告した。 ②地域活動に参加する他，学外の社会施設や大学などに直接出向き説明をうけるなど体験的な講座を設け，また，学内に講師を招聘し，講座を複数回受講した。さらに，社会で活躍する卒業生を招き，現在の仕事や高校との接合など具体的な体験談を聞く機会をもった。また，これらの経験を年度末に各グループ，クラス単位で報告するＩＲＰ発表会を持ち，体験の共有化をはかった。 ③鳴教大アドバイザーの協力の下，保護者相談を実施し,家庭支援も行えた。さまざまな事情を抱える保護者や本人にも，以前より自信をもって対応できるようになった。また，鳴教大大学院生の自宅派遣ができるようになるなど，支援の選択肢が広がった。			③生活面において他の生徒への影響が少ない場合,特別なニーズを要する生徒であってもその特性が見落とされる傾向にあり,それが学習面の遅れにつながっているケースもある。対策委員会等で支援を検討するためには,身近で係わる教員の気づきが不可欠であり，そのためにも特別なニーズを要する生徒の特性の理解を一層深める必要がある。 ③アドバイザーの先生に頼りすぎることなく，教職員の学ぼうとする機運を高めることが課題である。
4 基本的生活	①集団生活におけるルールを遵守させ，マナーの向上を図る。	**評 価 指 数** ①登校指導，校内巡視指導（昼休み）を毎日行う。 ①生活指導の集会を年5回以上実施する。 ①街頭交通指導を年20回以上実施する。	**評価指標の達成度** ①登校指導及び昼休みの校内巡視指導を毎日実施した。 ①生活指導の集会 全校集会　　4 回実施 学年集会　　1年　6 回　　2年　6 回　　3年　10 回	**総合評価** （評定） Ａ’	自転車通学生が多いので，通学マナーの向上に一層取り組んでほしい。	①挨拶運動は，本年度同様に生徒会を中心に取り組みたい。 ①交通事故防止や交通マナーの向上に向けて，より徹底した指導を行ってい

習慣の確立と規範意識の高揚	②遅刻防止の指導の充実を図る。	②遅刻指導強化週間を，学年単位で各学期に 1回以上実施する。 ②1日当たりの遅刻者を10人以下を目指す。	①街頭交通指導 交通マナーアップ運動　10　回実施 学校安全の日　10　回実施 ②遅刻指導強化週間 1年 1 回　2年 1 回　3年 1回 ②年間遅刻者数（１日あたりの遅刻者数，2学期末現在） 今年度　10.0人　昨年度　10.0人	（所見） 遅刻者数は一昨年に比べ減少している。しかし，特定の生徒の遅刻が目立つ状況があり，それらの生徒に対しての生活習慣の指導を徹底する必要がある。		く必要がある。
		活 動 計 画 ①年間計画に基づいて指導にあたる。 ①生徒会・交通委員とともに挨拶運動を展開する。 ①学年集会，全校集会で指導する。 ①毎月の交通マナーアップ運動の日，学校安全の日に街頭指導をする。 ②遅刻理由を把握し指導する。 ②遅刻の多い者には各学年団で指導を行う。	**活動計画の実施状況** ①生徒指導年間計画に基づいて適切に指導にあたった。 ①生徒を主体とする挨拶運動は，生徒会・交通委員とともに達成できた。 ①集会における指導は，問題行動を防ぐことができるような内容とし，生徒の健全育成に努めた。 ①毎月10日の交通マナーアップ運動は，職員・生徒が警察署・地域の交通安全協会の方と共に街頭に立ち指導した。毎月20日の学校安全の日は，職員で街頭指導した。年度や学期の始めは，連続した街頭指導を行っている。 ②遅刻理由を把握し，適切な遅刻指導が行えた。各学年において遅刻指導を実施した。			
5 **人権意識の高揚**	①人権ホームルーム活動の充実を図る。 ②人権委員会を中心とした生徒の自主活動の充実を図る。 ③人権教育職員研修会の充実。	**評 価 指 数** ① 1 年生は 6 回，2 年生は 6 回，3 年生は 5 回以上の人権ホームルーム活動を確保する。 ① 1 年生は 3 回，2 年生は 3 回，3 年生は 2 回以上の先行授業及び研究授業を目指す。 ②各ＨＲの人権委員に人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。 ②「市高人権新聞」は年間6回以上の発行を目標とし，記事には人権委員が書いたものを2つ以上掲載する。 ②「人権展」では模造紙 16 枚以上を目標とし，来場者 100 人以上を目指す。 ②中･高生による人権交流集会への参加を増やす。 ②同和カルタ取り大会で50名以上の参加を目指す。 ③ PTA 研修は 2 回，校外研修は 1 回，校内研修は 3 回以上の開催を目指す。 **活 動 計 画** ①人権教育年間計画に基づき，各クラスの実態に即して指導を行う。 ①担任会で人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。	**評価指標の達成度** ①ＨＲ活動　1 年生･･･6 回，2 年生･･･6 回，3 年生･･･5 回 ①先行授業　1 年生･･･3 回，2 年生･･･3 回，3 年生･･･2 回 ②事前研修　1 年生･･･3 回，2 年生･･･3 回，3 年生･･･2 回 ②市高人権新聞を年間 6 回発行 ②「人権展」で 16 以上を展示，来場者 141 名 ②人権交流集会に 3 名が参加 ②同和カルタ取り大会に 64 名参加 ③ PTA 研修は 2 回，校外研修は 1 回，校内研修は 3 回を開催 **活動計画の実施状況** ① 1 年生では，身の回りの差別を中心に指導を行った。2 年生では，アイヌから始め，近代・現代の歴史を学習した。3 年生は企業・就職・結婚を中心に指導を行った。 ①担任の先生方に，先行授業を見てもらった後，授業感想	**総合評価** （評定） A （所見） 人権ホームルームの実施にあたり，研修会の日程や内容を調整し，先行授業や指導案作成のを参考になるよう配慮した。各クラスで生徒の実態に即した指導や，人権ホームルームができたと思われる。今後は，人権問題に対して生徒が主体的に授業に参加できる形を目指し，人権問題を「身近」なものとして考えられる生徒を育成したい。	人権展や人権新聞等を通じて，生徒の意見としっかり向き合った教育活動をしている。中学生や保護者，OBOG など外部に向けての発信も熱心にしている。	①人権委員のホームルームでの活動をより支援できるようにしていき，生徒同士の自発的な学びができるように工夫していきたい。 ②人権新聞に，生徒の率直な意見を掲載し，生徒間で話題となるような記事を提供していきたい。 ③教職員人権研修のテーマを学校の現状と照らし合わせ，より実践的な現場で生かせる内容にしていきたい。

		①各学年で先行授業(研究授業を含む)を実施する。 ①1年次と最初と3年時の最後に，人権問題意識調査を実施する。 --- ②各 HR の人権委員に人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。 ②人権ホームルーム記録用紙を作成する。 ②「市高人権新聞」を発行する。 ②市高祭で「人権展」を開催する。 ②「人権啓発作品展示」を実施する。 ②中･高生による人権交流集会へ参加する。 --- ③ PTA 研修を実施する。 ③校外研修を実施する。 ③校内研修を実施する。	用紙による振り返りを行った。 --- ②全学年とも，人権ホームルームの記録用紙を各クラスの人権委員が活動当日，または翌日に記録用紙を作成し，提出できた。 ②各クラスの人権委員は担当月の人権新聞に真摯に取り組めた。 ②人権展のための調べ学習やレポート作成を，多くの人権委員が積極的に行うことができた。「LOVE&PEACE 笑って暮らせる Perfect な毎日を」と題し，各クラスで様々な個別人権課題の展示を行った。 ②人権啓発作品展を行った。作品は書道・美術中心 ②人権交流集会に3名が参加 --- ③ 5 月「高校で求められる道徳教育～くすのきさんの絵本を通して～」講演，7月「私の歩んだ道～見えないから見えたもの～」講演，1 学期に 2 回実施し，3 学期は 1,2 年生の人権意見発表会に参加。県外研修は，京都大学を訪問した。	人権委員会の活動も年間を通して活発に行えた。人権新聞や人権展など，授業以外で人権を考える場となった。 人権教育職員研修は，年４回実施できたが，多様な人権問題に対する教職員の要望に応えられるように，研修のあり方や内容は毎年工夫していく必要がある。		
6 **環境教育の推進**	①資源の有効利用や環境負荷の軽減，環境保全など，地球にやさしい学校作りに積極的に取り組む。	**評 価 指 数** ①節電・節水に努める。 ①ゴミの分別，減量化に努める。 ①リデュース，リユース，リサイクルに努める。 ①環境委員による校内美化活動を年間10回実施する。 ①学校周辺地域の清掃活動を年間2回以上実施する。 **活 動 計 画** ①毎月の電力，水道使用量を調べ，昨年同期との比較を行い，結果を全校に知らせる。 ①スイッチや蛇口に節電・節水を呼びかける表示を貼り，注意を促し，使用していない教室等の照明をこまめに消す。 ①ゴミの分別を徹底する。 ①ペットボトル，紙パックの分別回収，家庭の廃油回収をおこない，印刷紙の裏面利用の徹底を図る。 ①環境美化に関するポスターや標語を作成する。 ①環境委員による校内美化活動を実施する。 ①学校周辺地域の清掃活動の日を設け，全校生徒で清掃奉仕活動を実施する。 ①定期的に校内放送で，環境美化や省エネについて，全校生徒に呼びかける。	**評価指標の達成度** ①校内美化活動　11 回実施 ①学校周辺地域の清掃活動　3 回実施 **活動計画の実施状況** ①毎月の使用電気量及び電気代を調べ，過去2年間と比較したものをグラフにして掲示する事により，より一層節電意識を高めていった。また，校内放送により周知徹底を図った。 ①ゴミの分別ができていないクラスや清掃場所をノートにチェックし，そのたびに注意勧告を行う事により，分別状況が改善されるようになった。 ①ペットボトル，紙パックの分別回収を行ったり，職員室では印刷用紙の裏面使用の徹底を進めた。 ①ペットボトルのリサイクル方法を見直し，不燃物や粗大ゴミの廃棄のルールについて最高を進めた ①環境委員による学校行事前の校内美化活動を実施した。 ①校外清掃活動を企画し，地域周辺の清掃活動を行った。	**総合評価** （評価） A’ （所見） 「新学校版環境ISO」に参加申し込みを行い，「環境目標」，「行動方針・実施方法」，「役割分担・組織」などを掲示し，また環境委員を中心に省エネについて各クラスで呼びかけを行うなど，活発な活動を行う事ができたが，使用電気量は昨年と比較すると増えたことが残念である。 校内美化・ゴミの分別に対する意識は年々向上してきており，今後も継続的に啓発活動に取り組みたい。	校外に開かれた学校なので，どうしてもゴミの量が増えがちである。グラウンドの隅等にゴミが残っている場所があるので，部の枠を超えて全校での取り組みも進めてはどうか。	①環境委員の活動は活発に行われているのだが，一部の生徒はそのような活動にあまり関心がないように思われる。 ①生徒総会で「ゴミの分別をきちんとすべきだ」という意見がでたり，有志による清掃活動が見られた点は大きな進歩であると思われる。 ①省エネについての関心をより高め，今年度増加した使用電気量を減らせることができるような啓発やアイデアを探りながら活動していきたい。
7	①防災意識を高め，災害時に自らの命を守り，落ち着い	**評 価 指 数** ①防災について関心の高い生徒の割合を 80 %以上にす	評価指標の達成度 ①学校の防災教育において，防災の意識の高まった生徒の	**総合評価** （評価）	昨年よりも生徒意識の向上が見られた面は評価できる。命に関わる最も大事な	①防災委員会の活動を広げ，生徒の防災意識の高揚を図るとともに，地域の方

防災教育の推進	て行動できる能力の育成に取り組む。	る。 ①生徒の防災士資格取得者を育成する。 **活 動 計 画** ①年 2 回防災訓練を実施する。 ①授業を通して，自然災害についての理解を深め，防災意識の向上に努める。 ①防災通信を職員・HR に配布し，意識の向上に努める。 ①防災委員会を組織する事で，生徒の研修の機会を増やし，地域と連携した活動を行う。	割合　64.2%　　昨年度　53.4% ① 3 名の生徒が防災士資格を取得することができた。 **活動計画の実施状況** ① 1,2 学期にそれぞれ防災訓練を 1 回ずつ（計 2 回）実施。 ①各教科において適宜自然災害についての話題を授業に取り組み実施した。 ①防災通信を HP や掲示物で情報発信することができた。 ①市民防災研修会への参加，沖洲地区自主防災連合会との交流会，避難マップの作成，炊き出し実習などを実施した。	Ａ’ （所見） 年 2 回の防災訓練を充実したものにし，防災意識を向上させ，自分はもちろん身の周りの人の生命を守るために日頃どのような準備・心づもりすべきかの啓発活動を工夫していく必要がある。 防災委員会の活動が，主体的で継続的な活動になるよう環境を整えることが喫緊の課題である。	教育活動なので，今後もしっかりと取り組んで欲しい。	々との連携を深めていきたい。